

行政に新たな価値を創造する



写真:平間至

越尾 淳

Atsushi KOSHIO

内閣官房行政改革推進本部事務局・内閣官房統計改革推進室 参事官

■ これまでのキャリアをふりかえって

行政管理の仕事は、まさにオールジャパンのものです。大きな改革のために必要となる種々の調整は、高度かつ重要であることから、総理を直接支える組織である内閣官房がしばしば司ることとなり、私は役人人生の半分以上をここで過ごしてきました。

行政管理を志望する皆さんには、この行政管理という「仕事」に就職するんだという心構えを持ち、「ベース(基地)」としての総務省を目指していただきたいと思います。(と、このようなことを採用パンフレットに書ける自由さも総務省の特徴です。)

ある内閣官房副長官経験者の方は言われました。「調整とは足して2で割ることではない。新しい価値の創造である」と。行政管理では、粘り強く様々な当事者の声を聴きながらも、前例やしがらみにとらわれることなく、現状を打ち破る発想や決断ができなければなりません。皆さんも、行政に新しい価値を生み出す、イノベティブな仕事をしてみませんか？



長崎・上五島で漁船クルージング



クールジャパンの会議で委員の篠原ともえさんと



行革事務局のメンバーたちと

2017～現在 内閣官房行政改革推進本部事務局・内閣官房統計改革推進室 参事官

データ等の合理的な根拠を用いて政策や意思決定の精度を高めることを目的とするEBPM (Evidence-Based Policymaking) の推進を担当しています。的確な現状認識と目標設定を行い、その達成に向けた道筋を確かな根拠により検証しながら政策を実行することで、ムリやムダは大きく減るはず。新しい行政改革の手法として、意欲的に取り組んでいます。

2015～2017 内閣官房内閣人事局 企画官(総括担当)

局の総括として全体調整を図るほか、局長は内閣官房副長官であることから、局業務についての秘書官的役割を担いました。毎日のように官邸に行き、多忙を極める局長に対し、いかに効率的でわかりやすい説明をするか、局長の指示や考えを局内に的確に伝達するかについては、2回の秘書官経験が大いに役立ちました。

2014～2015 大臣官房秘書課 企画官

1種・総合職職員(課長補佐以下)の人事と総合職の採用を担当しました。女性活躍や働き方改革が主要なテーマになった時期であり、女性活躍のための方針づくりや、働き方改革について大臣政務官とともに有識者の会議を開催して報告書をまとめるなど、今日の総務省の取組の土台をつくることができたと自負しています。

2012～2014 国務大臣(行政改革担当、国家公務員制度担当、クールジャパン戦略担当、再チャレンジ担当)、内閣府特命担当大臣(規制改革) 秘書官

再度政権交代し、2回目の秘書官。行政改革とクールジャパンを中心に大臣を補佐しました。懸案の公務員制度改革が内閣人事局の発足で一つの歴史的節目を迎えたこと、クールジャパンでこれまで全く仕事に役立たないと思っていた趣味の音楽、アニメ、ファッションの知識や経験が存分に生かされたことは良い思い出です。

2009～2011 内閣官房内閣総務官室(法案準備室) 参事官補佐

政権交代があり、内閣官房副長官直属の法案チームで政治主導を確立するための仕組みや組織づくりの法案を担当しました。「政権交代」「政治主導」というものがこれほど仕事の仕方を変えるのかということを目の当たりにし、そうした中で政策の専門家集団たる役人の役割は何なのだろうかと、自問自答した時期でした。

2007 内閣府副大臣 秘書官

秘書官として公務員制度改革、独立行政法人改革、政策金融改革、規制改革と幅広い改革を補佐しました。天下りあっせん禁止、能力・実績主義の導入等を内容とする国家公務員法の改正の国会審議では、与野党の激しい論戦があり、気の抜けない瞬間が続きました。この時の経験が後の大臣秘書官の際にも大いに役立ちました。

2006 行政改革推進本部事務局 参事官補佐

国家公務員の雇用を守りつつ定員削減を行うため、府省を超えた配置転換、いわゆる「リストラ」を担当しました。統計担当の職員が、翌年には遠く離れた刑務所の刑務官になるなど、職員本人や家族の方々に大変な苦労をおかけしました。定員という数字の先に、様々な人々の人生や思いがあるということを痛感した仕事でした。

2001～2005 大臣官房管理室公益法人行政推進室 主査⇒参事官補佐

公益法人の指導監督の総合調整と白書の作成を担当しました。また、公益法人の会計基準を最新の企業会計的な内容に改正する業務を担当しました。会計は門外漢で苦労しましたが、検討会の先生方にも助けられ、無事改正を行うことができました。(後年、内閣府でNPO法人会計基準まで担当するとは思っていませんでしたが。)

1997～1998 総務庁行政管理局企画調整課

右も左も分からない1年生。当時の行政管理局は行政改革、規制緩和、地方分権と3つの大きな改革を抱え、毎日がお祭り騒ぎのように忙しい職場でした(今では「ブラック」とも言う…)。自分の目の前で動いている仕事の日々報道され、「すごいところに就職してしまったな」と思いながら、仕事をこなすのに必死な毎日でした。